

日立グループ環境経営の推進について
— 2008年度国内CO₂排出量14%削減、
輸送エネルギー原単位10.5%削減—

2009/07/30

株式会社日立製作所

日立グループ環境経営の推進について

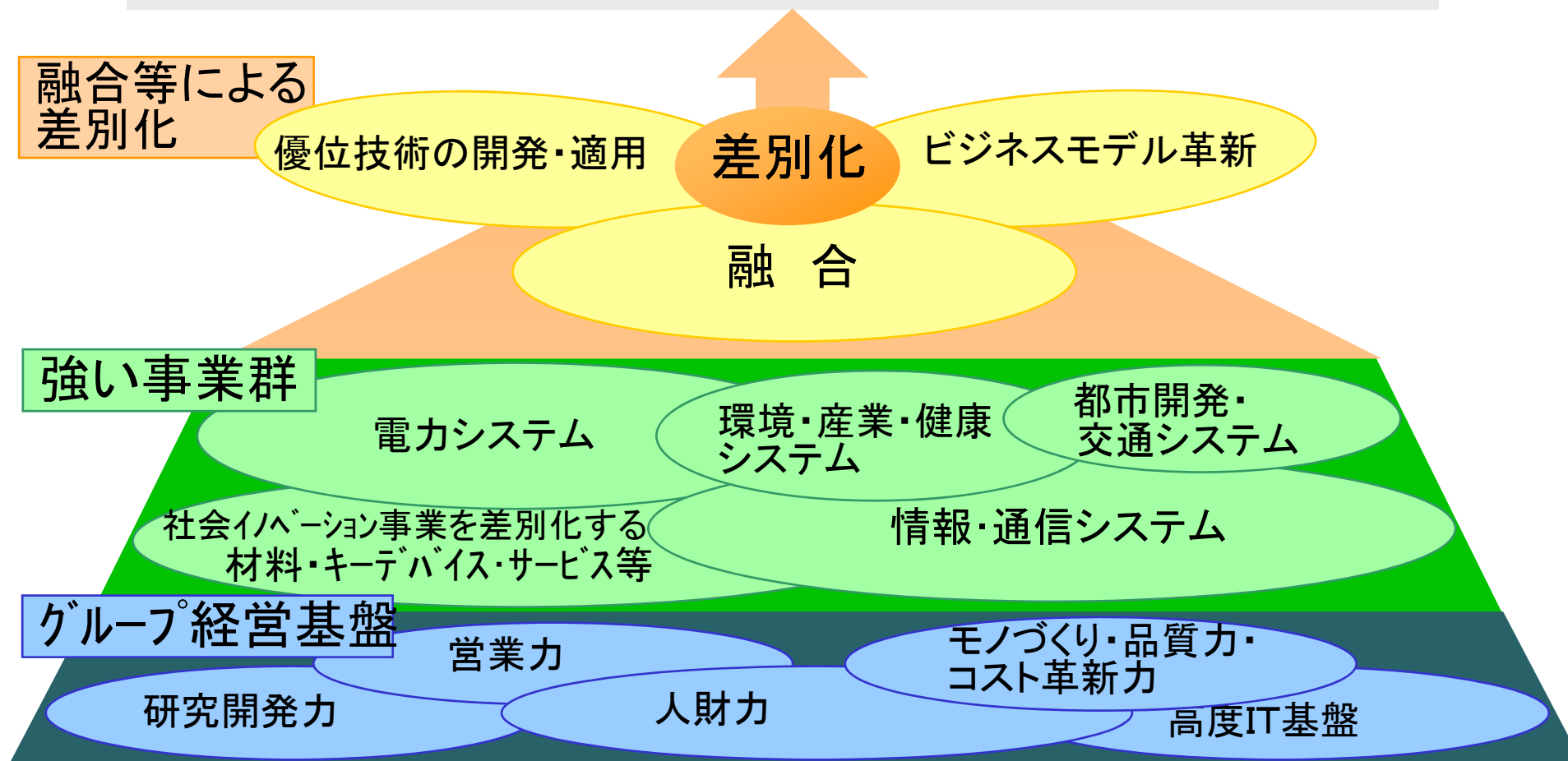
Contents

1. 日立が進める社会イノベーション事業
2. 環境ビジョンと中期計画・長期計画
3. 2008年度の環境負荷削減実績

1. 日立が進める社会イノベーション事業

安定的な高収益構造の確立

- グループ総合力による環境価値創造
- 高信頼性社会基盤・関連サービスのグローバルな展開
- 情報技術を駆使したより安全・安心な社会基盤の創造



日立グループ環境経営の推進について

Contents

- 1.日立が進める社会イノベーション事業
- 2.環境ビジョンと中期計画・長期計画**
3. 2008年度の環境負荷削減実績

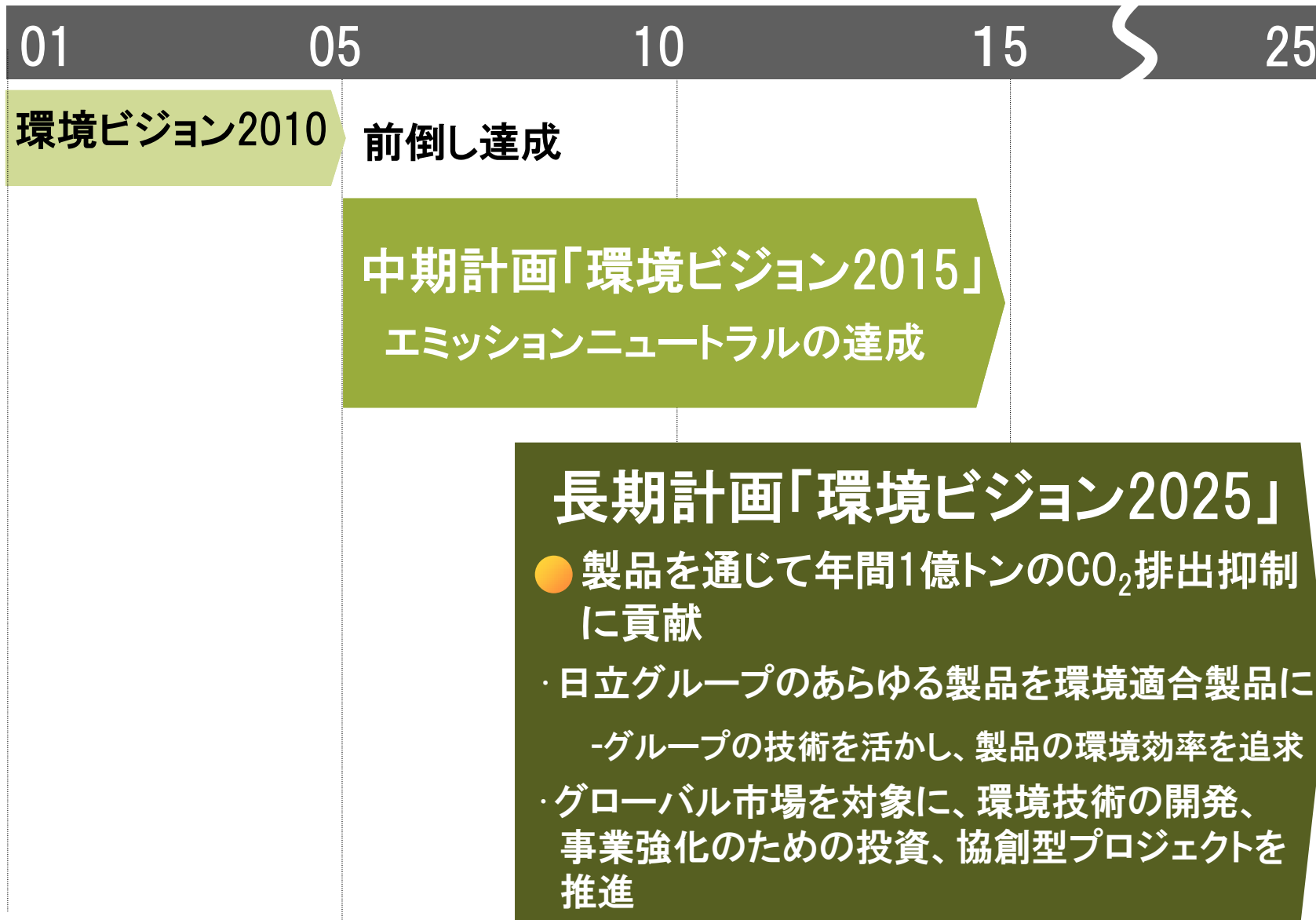
- CO₂排出量の少ないエネルギーインフラをつくる
- エネルギー消費の少ない製品をつくる



- 製品を回収し、資源として利用する

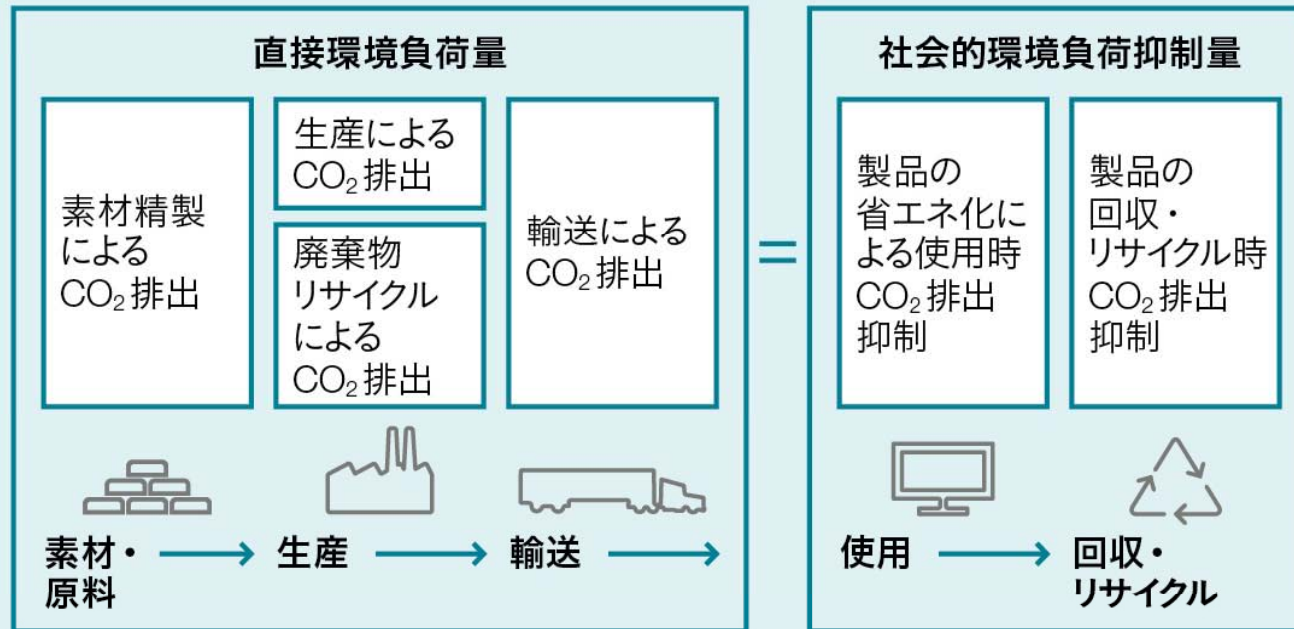
- 大気・水・土壌をクリーンにする

3. 環境ビジョンに基づく中期計画と長期計画



4. 中期計画「環境ビジョン2015」

[エミッションニュートラルの考え方]



推進の主な施策

〈直接環境負荷量の削減〉

- ・生産省エネ・輸送省エネ推進
- ・資源の循環利用推進
- ・スーパーエコファクトリー*1展開

*1エネルギー利用の効率化、資源循環の向上、VOC(揮発性有機化合物)の排出削減など6項目から取り組みを評価し、業界トップクラスの環境効率、環境負荷の低減を達成している事業所を認定

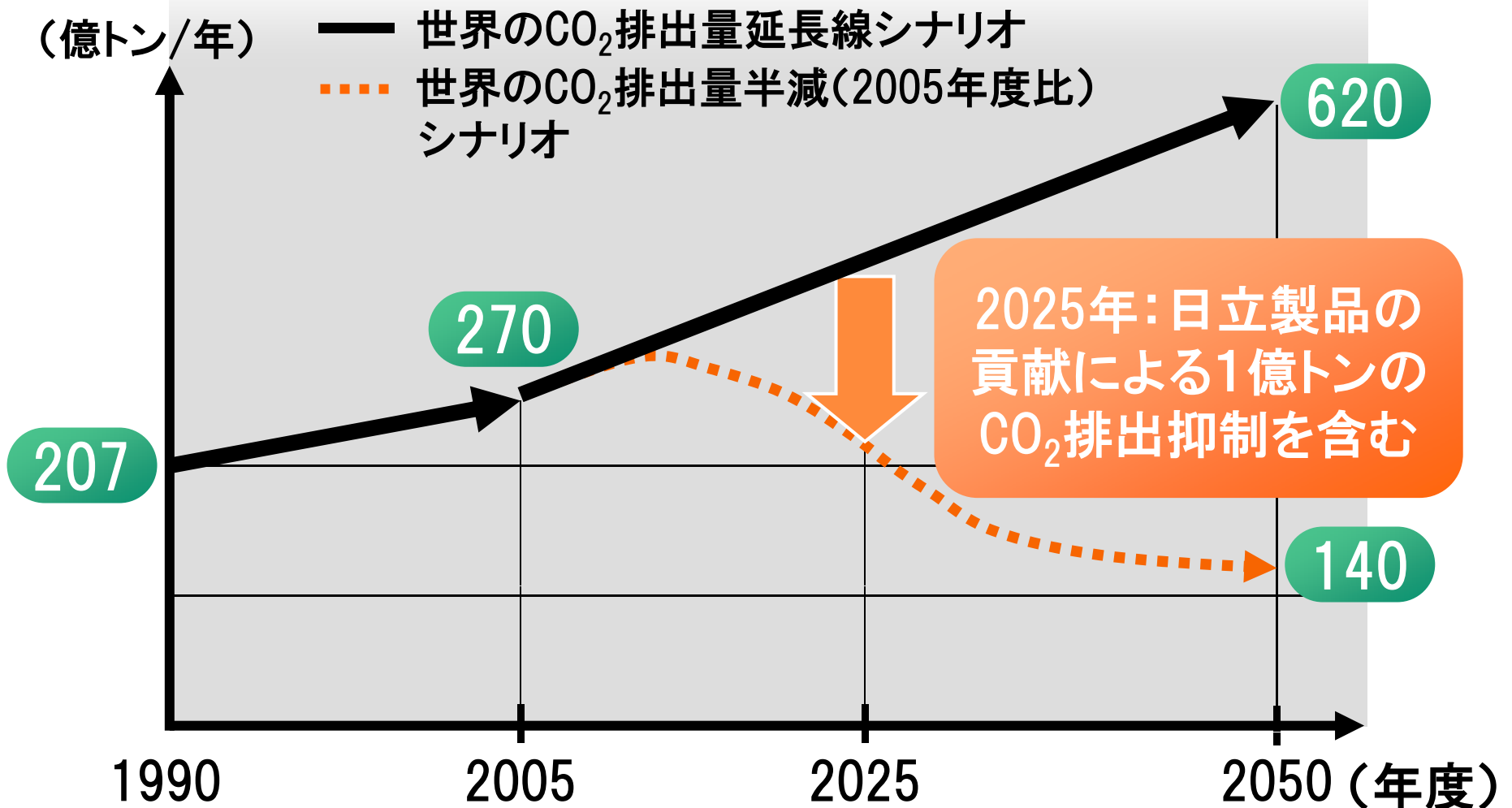
〈社会的環境負荷抑制量の拡大〉

- ・環境適合製品*2の拡大
- ・製品の省エネ・省資源化の推進

*2 製品ライフサイクルの各段階における環境負荷を省エネルギー性や再生資源化などの8項目で5段階評価し、基準点以上の製品を認定

5. 長期計画「環境ビジョン2025」: 考え方

世界のCO₂排出量



資料:IEA(国際エネルギー機関)“Energy Technology Perspective 2008”に基づき作成

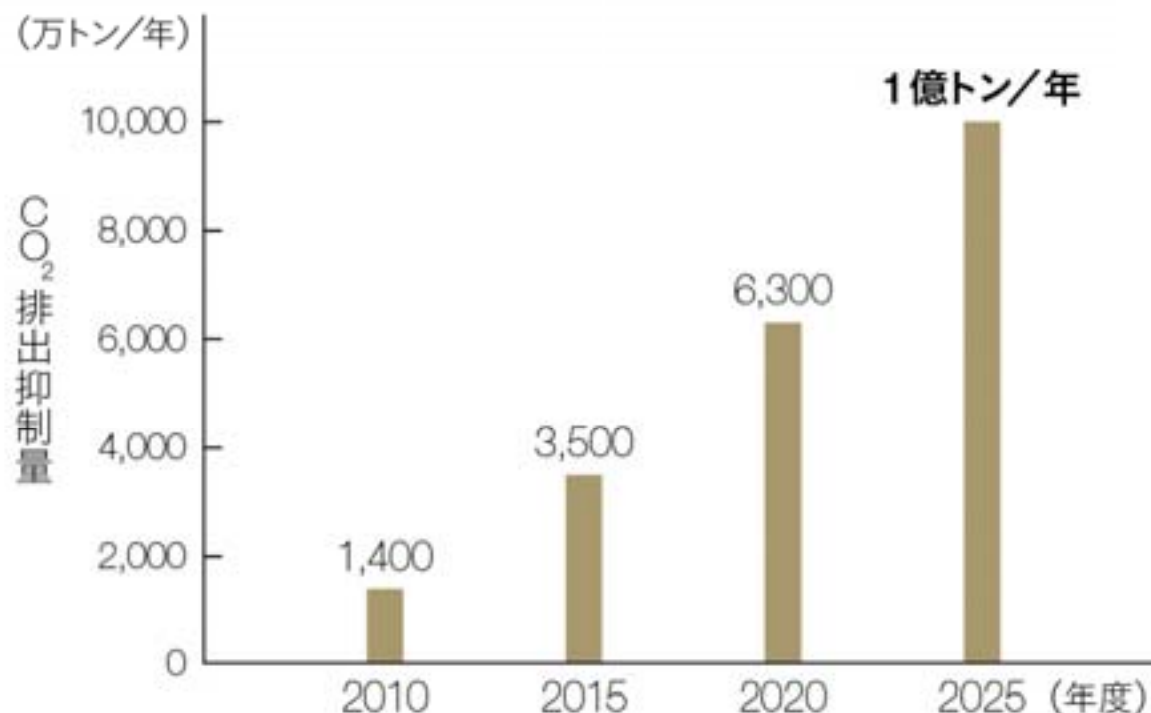
2025年度までの目標

製品を通じて年間1億トンのCO₂排出抑制に貢献

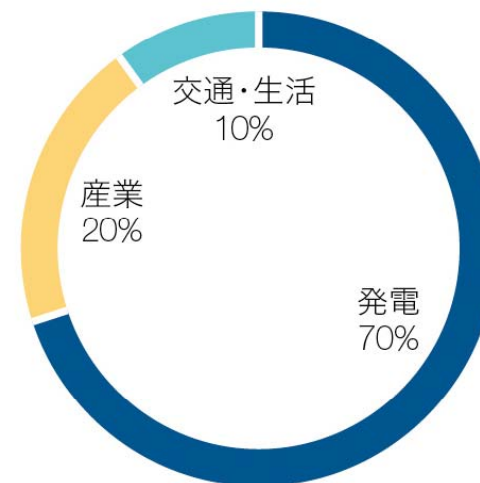
→製品の環境効率を追求し、

あらゆる製品を「環境適合製品」にする。

[CO₂排出抑制の計画] (2005年度基準)



[2025年度CO₂排出抑制の内訳]



日立グループ環境経営の推進について

Contents

- 1.日立が進める社会イノベーション事業
- 2.環境ビジョンと中期計画・長期計画
- 3. 2008年度の環境負荷削減実績**

7. 2008年度 環境負荷削減実績

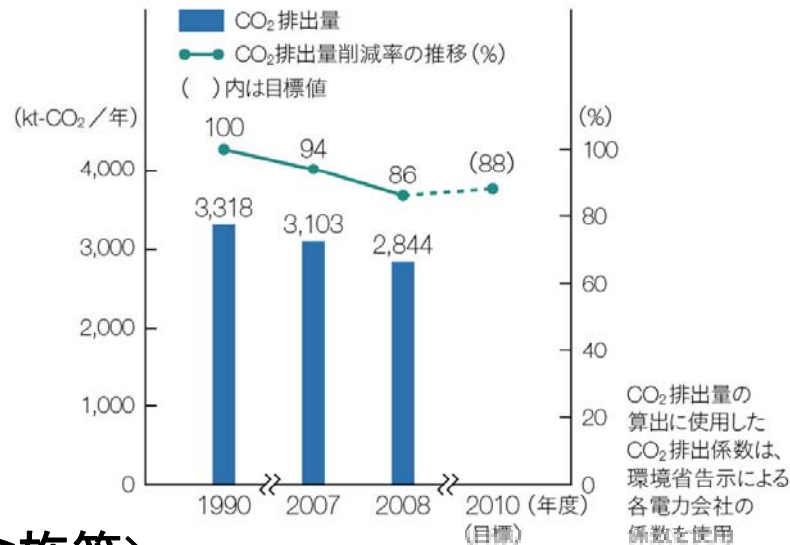
| 行動目標 | 2008年度目標 | 実績 |
|-----------------------|-----------------------|-------|
| CO ₂ 排出量削減 | 7%(国内総排出量1990年比) | 14% |
| | 3%(海外生産高原単位排出量2003年比) | 3.3% |
| 実質生産高輸送 エネルギー原単位削減 | 2%(2006年比) | 10.5% |
| 廃棄物発生量削減 | 16%(総量削減グループ2000年比) | 25% |
| | 16%(原単位削減グループ2000年比) | 25% |
| 資源循環率向上 | 6%(国内2005年比) | 11% |
| VOC排出量削減 | 44%(国内排出量2000年比) | 62% |
| | 6%(海外排出割合(*)2005年比) | 24% |
| 製品環境負荷削減 | 環境適合製品売上高比率38% | 47% |

(*)使用量に対する排出量の割合低減率

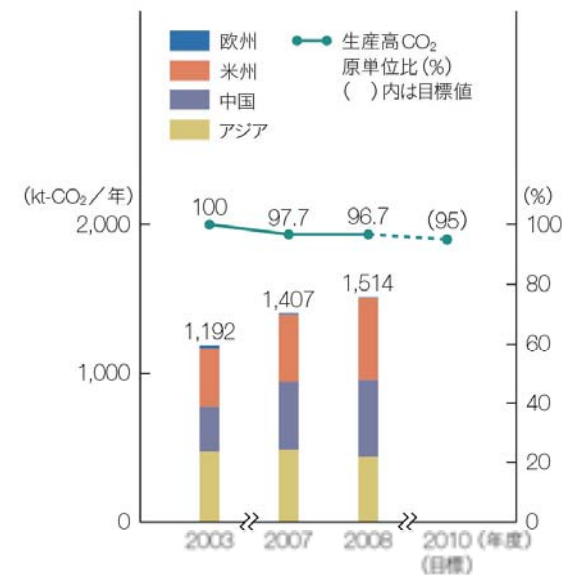
8. CO₂排出量の削減

(1)2008年度実績

2010年度目標(国内):
CO₂排出量12%削減 (1990年比)



2010年度目標(海外):
生産高CO₂排出量5%削減 (2003年比)



<主な施策>

【省エネ投資】投資金額:77億円、効果:CO₂削減 50kt

- ①グループ内省エネソリューション活用:省エネ診断、省エネ改善提案、ESCO
- ②工場施設省エネ機器導入:高効率アモルファス変圧器、エネルギー管理システム
- ③燃料転換の推進

(2)今後の計画

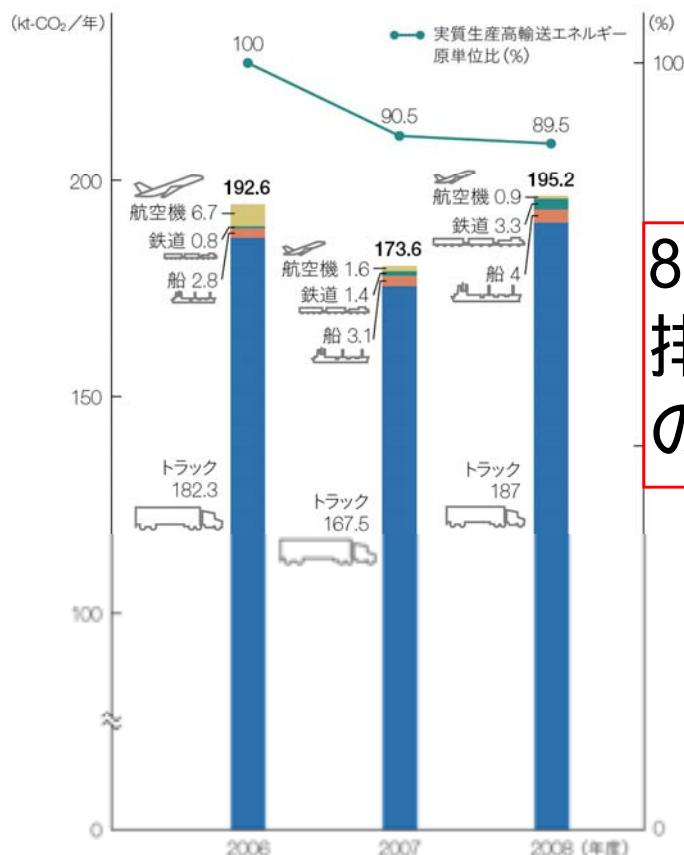
- ・省エネ投資の継続実施
- ・燃料転換計画の確実な実行
- ・改正省エネ法対応による管理強化

9. 輸送部門のCO₂排出量削減

(1)2008年度実績

2010年度目標

実質生産高輸送エネルギー原単位11%削減 (2006年比)



〈主な施策〉

①モーダルシフトの推進

②輸送回数の低減:

8. CO₂
排出量
の削減

モジュール工法による積載効率向上 等
エコマーク*3の取得 (2008年度)

モートル

(株式会社日立産機システム)

株式会社日立産機システム

ドライブシステム事業部

累計 5商品、2社、1事業部認定取得

*3 (1)商品の認定基準

- ・500km以上陸上貨物輸送のうち30% (※) 以上、鉄道を利用している商品
- (※) 数量または数量×距離の比率

(2)取組企業の認定基準

- ・500km以上陸上貨物輸送のうち15% (※) 以上、鉄道を利用している企業
- (※) 数量または数量×距離の比率
- ・数量で年間1万5千トン以上または、数量×距離で年間1,500万トンキロ以上の輸送に鉄道を利用している企業

(参考)

2008年11月時点の国内全体での

エコマーク認定状況は

認定商品は26件(31品目)、認定企業は47件

(2)今後の計画

- ・モーダルシフトの推進
- ・積載効率の向上

10. 資源循環

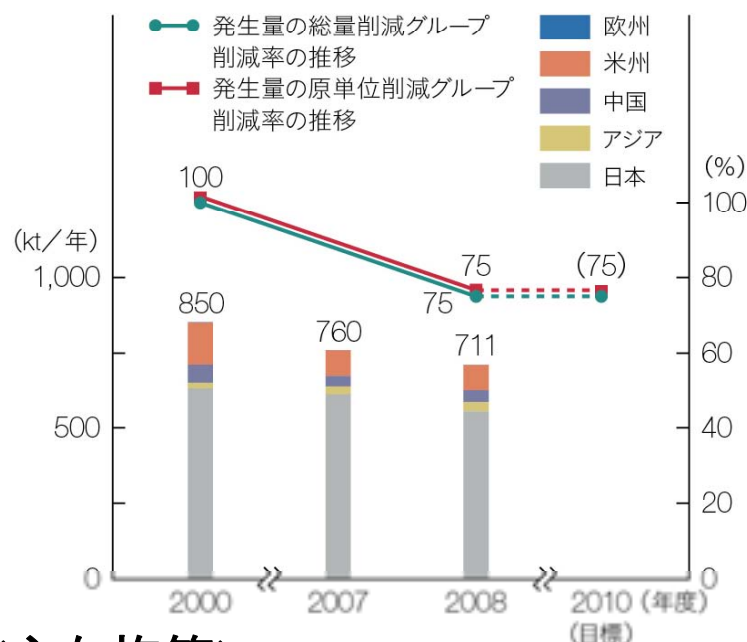
(1)2008年度実績

①発生量削減

2010年度目標:

廃棄物発生量25%削減(2000年比)

または 原単位発生量25%削減(2000年比)



<主な施策>

①設計・プロセスの改善: 歩留まり向上、材料使用の最小化

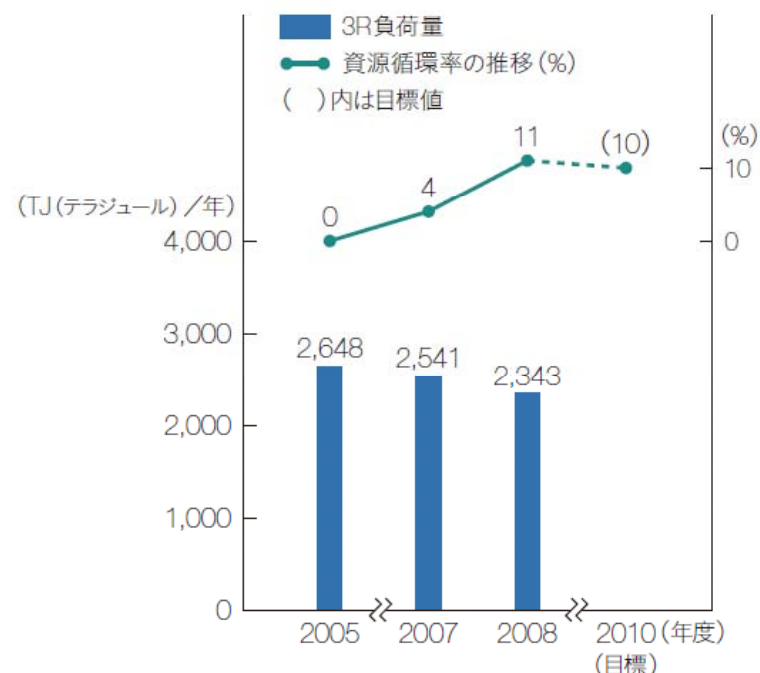
②処理方法の高度化: サーマルリサイクル→マテリアルリサイクル

②資源循環率の向上

2010年度目標(国内):

資源循環率*4 10%向上(2005年比)

*4 LCA的観点から算出した廃棄物処理のための環境負荷量(=3R負荷量)の削減率



(2)今後の計画: 資源循環推進施策のグループ内拡大

11. VOC排出量削減

(1)2008年度実績

2010年度目標(国内):
VOC排出量50%削減 (2000年比)



(参考)

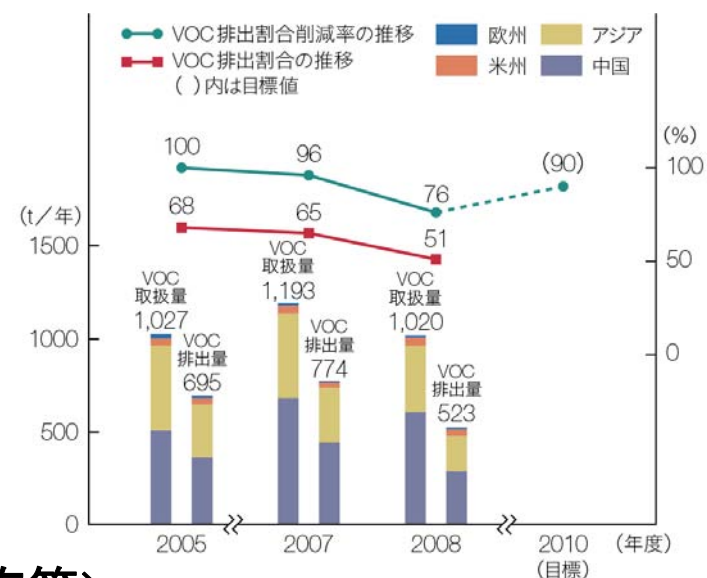
- ・大気汚染防止法による国の目標
→VOC排出量30%削減(2000年比)

(2)今後の計画

- ・排出VOCの回収、リサイクル
- ・非VOC材料への代替化

2010年度目標(海外):
VOC排出割合削減率*5 10%削減 (2005年比)

*5使用量に対する排出量の割合低減率



<主な施策>

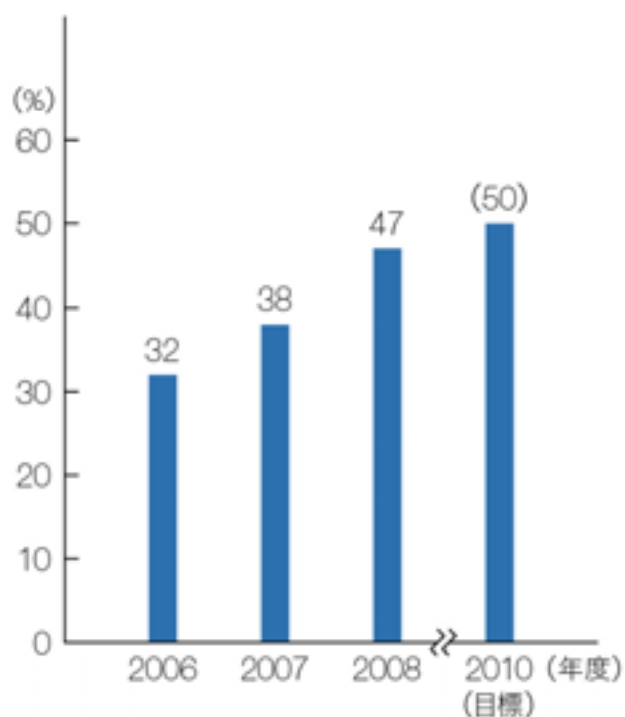
- ①処理方法の改善:
蓄熱触媒燃焼式VOC処理装置の導入等
- ②塗装材料の改善:
有機系塗料から水系塗料への変更

12. 製品環境負荷の削減

(1)2008年度実績

2010年度目標：環境適合製品売上高比率50%

[環境適合製品売上高比率の推移]



- ・製品使用時のエネルギー使用量の削減
2007年度：7.2億kWh
→2008年度：10億kWh
(23.9万戸の世帯数に匹敵*)

* 平均的な1世帯当りのエネルギー消費量で世帯数に換算

<主な施策>

- ・製品環境効率の向上
- ・エコデザインマネジメントの強化
(環境配慮設計国際規格IEC62430に基づく、「日立グループエコデザインマネジメント指針」策定)

- ### (2)今後の計画
- ・システム・ソフトウェア製品の環境適合製品化拡大
 - ・海外会社の環境適合製品化推進

END

日立グループ
環境経営の推進について

2009/07/30

株式会社日立製作所

HITACHI
Inspire the Next